

2025 主要ニュース



沖縄総合事務局 2025 主要ニュース

目 次

◆主要ニュース 1 【2025 年 1 月／農林水産部】

多良間地域 日本農業遺産に認定 ～認定は沖縄県内初！！～

◆主要ニュース 2 【2025 年 1 月～4 月／総務部】

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に琉球大学病院及び
同大学医学部が移転

◆主要ニュース 3 【2025 年 1 月～12 月／経済産業部】

地域課題に立ち向かう官民共創の取組
～地域課題解決型スタートアップ支援事業～

◆主要ニュース 4 【2025 年 1 月～12 月／開発建設部】

最盛期を迎える首里城正殿復元整備！ ～外観復元が完了～

◆主要ニュース 5 【2025 年 5 月／開発建設部】

沖縄美ら海水族館（海洋博公園）のミナミバンドウイルカの
「オキちゃん」「ムク」が飼育 50 周年を迎えました

◆主要ニュース 6 【2025 年 6 月～10 月／財務部】

未来を担う子どもたちが財政を考える！
～「財政教育プログラム」を実施～

◆主要ニュース 7 【2025 年 6 月／運輸部】

沖縄「交通渋滞・交通空白」解消イニシアチブ
～移動を変えて未来を豊かに～

◆主要ニュース 8 【2025 年 8 月／開発建設部】

令和 7 年 北大東島豪雨について ～迅速な災害復旧支援の取組～

◆主要ニュース 9 【2025 年 9 月／農林水産部】

沖縄県内初！「スマート農業技術活用促進法」に基づく計画を認定しました！
～きとうきび栽培における労働生産性の向上に向けて～

◆主要ニュース 10 【2025 年 11 月／農林水産部】

「沖縄黒糖」が地理的表示（GI）に登録されました！
～地理的表示（GI）保護制度開始 10 周年～

◆主要ニュース 11 【2025 年 11 月／経済産業部】

11 月は事業承継啓発月間 ～つぎんちゅがつなぐ！地域のミライ～

【2025 年 1 月】

主要ニュース NO. 1

農林水産部

多良間地域 日本農業遺産に認定

～認定は沖縄県内初！！～

日本農業遺産とは、我が国において特徴的かつ伝統的な農林水産業を営む地域を認定する制度です。

多良間地域では、平坦で資源に恵まれない孤島において、「抱護（ポーク）」と呼ばれる林帯等を造成し強風を防ぐとともに、耕畜連携による有機資源の循環利用により、厳しい環境での農業生産や社会生活を維持してきました。

そうした農業生産システムが、「琉球王国時代の『抱護（ポーク）』が育む多良間島の持続的島嶼農業システム」として、2025 年 1 月に日本農業遺産に認定されました。

2 月には東京・霞が関の農林水産本省で日本農業遺産認定証の授与式と記念講演が行われ、多良間村と沖縄県から関係者が出席しました。会場では多良間地域の特産品試食コーナーを出展し、好評を博しました。

沖縄県内で日本農業遺産に認定されたのは、多良間地域が初めてとなります。今回の認定が、多良間地域そして沖縄の農林水産業の魅力発信の契機となることを期待しています。

農林水産部では引き続き、農業遺産をはじめとした各種制度を通じて、沖縄の農林水産業振興に取り組んでまいります。



日本農業遺産認定証授与式及び記念講演会



特産品出展の様子



沖縄県多良間地域

琉球王国時代の「抱護（ポーク）」が育む多良間島の持続的島嶼農業システム

多良間地域ポスター
（多良間村提供）

【2025 年 1 月～ 4 月】

主要ニュース NO. 2

総務部

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に 琉球大学病院及び同大学医学部が移転

平成 27 年 3 月に返還されたキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区（宜野湾市）では、今後の基地跡地利用のモデルケースとして、琉球大学病院及び同大学医学部の移設を中心とする沖縄健康医療拠点の整備が進められ、令和 7 年 1 月に琉球大学病院が開院、同年 4 月には医学部が開学しました。

【沖縄健康医療拠点整備の沿革】

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区は、平成 25 年 4 月に公表された「沖縄における在日米軍施設・区域の統合計画」に基づき、返還されることとなった嘉手納飛行場以南の駐留軍用地のうち、他の返還予定地に先駆けて、平成 27 年 3 月に返還された約 51 ヘクタールに及ぶ大規模な地区です。

平成 26 年 4 月には、沖縄県・宜野湾市が、同年 6 月に沖縄県・宜野湾市・琉球大学が「国際医療拠点」形成に向けた支援をそれぞれ国に要請し、国際医療拠点の形成を跡地利用の中心とする方向性が明確になりました。

これらの動きを受けて、宜野湾市において、平成 27 年 7 月に沖縄健康医療拠点（策定当時の名称は国際医療拠点）の形成を中心とした跡地利用計画が策定されました。

「沖縄健康医療拠点」は、国際性と離島の特性を踏まえ、琉球大学病院及び同大学医学部を移設し、沖縄の健康医療体制の中核となる医療拠点として、「高度医療・研究機能の拡充」、「地域医療水準の向上」、「国際研究交流・医療人材育成」の 3 つを柱とし、整備が進められてきました。

沖縄健康医療拠点には、沖縄振興への貢献や「長寿県沖縄」の復活、国際保健（グローバル・ヘルス）への貢献に寄与することが期待されます。

西普天間住宅地区（宜野湾市）

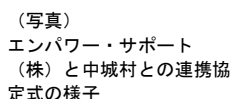


整備前（平成 27 年頃）



整備後（令和 7 年）

～地域課題解決型スタートアップ支援事業～



【2025年1～12月】

主要ニュース

NO.4

開発建設部

最盛期を迎える首里城正殿復元整備！

～外観復元が完了～

首里城正殿復元整備工事（工期：R4年～R8年）は、令和8年の完成を目指して進めています。令和7年1月から正殿の朱色を彩る仕上げの上塗り塗装が始まり、3月に正殿屋根の左右に配置される龍頭棟飾りゅうとうむなかざりの設置を開始、5月には鬼瓦くたりむね（正殿屋根の降棟先端に配置される獅子飾り）及び唐破風妻飾（正殿正面中央を飾る唐破風を装飾する彫刻物）が設置されました。



上塗（朱色）作業の状況（R7.1）



龍頭棟飾と鬼瓦



唐破風妻飾

これまで正殿を覆う「素屋根すやね」の中で着々と進めておりましたが、7月に外観復元が完了したことから素屋根解体に着手し、10月30日に素屋根が撤去され、約6年振りに沖縄の空の下、首里城正殿が姿を表しました。現在は、正殿内部での塗装・彩色や両廊下の整備などを実施しています。



外観復元が完了した首里城正殿（R7.10.29撮影）



首里城正殿復元状況（R7.11.2撮影）

後之御庭での鬼瓦の実物展示や世誇殿での石膏模型の展示など、復元テーマの1つである「見せる復興」にも引き続き取り組んでおりますので、是非、現地でご覧ください。



後之御庭での鬼瓦の実物展示

【2025 年 5 月】

主要ニュース

NO.5

開発建設部

沖縄美ら海水族館（海洋博公園）のミナミバンドウイルカの「オキちゃん」「ムク」が飼育 50 周年を迎えました

沖縄美ら海水族館（海洋博公園）のイルカショーで活躍するミナミバンドウイルカ「オキちゃん」と「ムク」が、令和 7 年 5 月 1 日に飼育 50 周年という大きな節目を迎えました。

2 頭は 1975 年の沖縄国際海洋博覧会当時から海洋博公園内で飼育され、以来、世代を超えて多くの来場者に親しまれてきました。現在もなお世界最長の飼育記録を持っており、その存在は沖縄の海を象徴する存在の 1 つとなっています。

長年にわたり健康を保ち、ショーで元気な姿を見ることができたのは、飼育員が積み重ねてきた高い飼育技術と、目の前の海から供給される豊かな海



水の恵みのおかげです。

令和 7 年 5 月 5 日に、「未来につなぐ、これまでと・これから」をテーマに、「オキちゃん」「ムク」の飼育 50 周年を迎えたことを記念する式典が海洋博公園オキちゃん劇場において行われ、海洋博公園の管理者である沖縄総合事務局の三浦前局長から「オキちゃん」の命名者へ記念品を贈呈しました。また、沖縄県知事から「観光特別賞」が 2 頭に贈られたほか、本部町長から「本部町観光アンバサダー」の委嘱

状が贈られるとともに、「特別住民票」が交付されました。

なお、本稿執筆中の 12 月 2 日、体調不良により治療・療養を続けていた「オキちゃん」が死亡しました。「オキちゃん」は、沖縄復帰後の観光のシンボリック存在であり、これまで沖縄の観光に貢献した功績は大きく、世代を超えて多くの来場者に親しまれてきました。訃報は琉球新報、沖縄タイムスの両紙において一面トップで報じられました。これまでの功績に深く感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

* 写真提供 沖縄美ら海水族館



特別ショーの様子



三浦前局長より命名者へ記念品の贈呈

【2025年6月～10月】

主要ニュース NO.6

財務部

未来を担う子どもたちが財政を考える！

～「財政教育プログラム」を実施～

1. 財政教育プログラムについて

財務部では、小中学校、高校に出向いて、難しそうに見える日本の財政に興味を持つきっかけとなるような出前授業、「財政教育プログラム」を実施しています。

令和7年度は、6月～10月までに9校の小学校、中学校で出前授業を実施し、283名の子どもたちが参加しました。財務部からは、講師として延べ11名、グループワークを補助するアドバイザーとして延べ40名の職員を派遣しました。

今年度は、9校中7校が離島に所在する小学校、中学校で、距離的な問題もありましたが、WEBによる事前調整を密に行い、沖縄本島、離島を問わず学びの機会を提供する事ができました。また、学校によっては子どもたちだけではなく、保護者もグループワークに積極的に参加し、関心の高さがうかがえました。

毎回、出前授業の最後に、「18歳になると選挙権が与えられること、財政の中身は国民が代表者として選んだ国会議員が国会で議論して予算を決めている。」事を説明し、出前授業の締めくくりとしています。



(若手職員による講義の様子)

こどもたちの感想

税金は必要ないと思ったけど、公共事業など役に立つ事に使われていることがわかった。

公共サービスについて理解できた、グループワークが楽しかった！

社会保障費の割合が多いのは、少子高齢化の影響が大きいことがわかった。

救急車が1回出動するのに、約4万円の費用がかかる事を聞いて驚いた。

日本の借金の総額を知り、びっくりしました。

2. 人材の育成

出前授業における講師、グループワークを補助するアドバイザーには、若手職員（係員クラス）が積極的に参加することにより、財務省の業務に必要な財政の基礎知識を習得する機会となり、子どもたちを対象に授業を行うことで、モチベーションの向上及びプレゼンテーション能力の向上を図っています。この取組みは、若手職員の人材育成に資するものです。

財務部では、教育機関と連携し、子どもたちが日本の財政に興味を持つきっかけとなる出前授業を積極的に実施してまいります。

【2025年6月】

主要ニュース

NO.7

運輸部

沖縄「交通渋滞・交通空白」解消イニシアチブ

～移動を変えて未来を豊かに～

沖縄においては、過度な自家用車依存と自家用車に頼らざるを得ない環境という負のスパイラルにより、都市部の「交通渋滞」と地方部を中心とした「交通空白」（公共交通による日常的な移動（通勤・通学、買い物、通院等）に関する課題がある状態をいいます。）が並行して進行しており、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光の質の低下につながる懸念されます。

このため、官民の多様な主体が一体となって、沖縄のありたい姿の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄交通リ・デザインの取組を進めているところです。

「沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言」（令和6年9月19日採択）と「「交通空白」解消に向けた取組方針2025」（令和7年5月30日 国土交通省「交通空白」解消本部決定）を踏まえ、

①ソフト面での「交通渋滞」の解消

②「交通空白」の解消

の2つを柱に、取組を一層強力に推進するための内閣府沖縄総合事務局の取組方針として、令和7年6月10日に、「沖縄「交通渋滞・交通空白」解消イニシアチブ」を公表しました。

本イニシアチブに沿って、予算、法制度、伴走支援、国による調査、市民や関係主体との連携・協働の促進といったあらゆる政策ツールを総動員し、先進技術や観光の力も活用したサービス設計を進め、移動のあり方を変えることを通じて「豊かな沖縄」を実現することを目指します。

沖縄「交通渋滞・交通空白」解消イニシアチブ ～移動を変えて、未来を豊かに～

内閣府
沖縄総合事務局

- 「沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言」、国土交通省「交通空白」解消に向けた取組方針2025」を踏まえ、①「交通渋滞」の解消（例：本島中南部）、②「交通空白」の解消（例：本島北部、離島）を柱に、取組を一層強力に推進する。
- 民間や自治体への財政支援（内閣府（沖縄）、国土交通省等の予算）、新たな法制度（日本版／公共ライドシェア等）、自治体や事業者等への伴走支援、リ・デザインに向けた国の直轄調査、新たな仕組み・サービスの構築のための市民、企業、学校等との連携・協働の促進（マーケットデザインチーム）など、あらゆる政策ツールを総動員。
- 官民のあらゆるプレイヤー、市民の参画の下、交通インフラの整備と連動し、自動運転等の先進技術や観光の力も活用したサービス設計を進めることで、精神的豊かさと経済的豊かさを両立した「豊かな沖縄」の実現を目指す。

①「交通渋滞」の解消

【短期】

➢ 通勤・通学をはじめとしたライフスタイルの転換、ビジネスリフォームが自律的、継続的に起こるための仕掛け・プロセスの設計

【中長期】

➢ 速達性、定時性、予見可能性、代替可能性を備えた高水準な基幹交通サービスへの再編

②「交通空白」の解消

【令和8年度まで】

➢ 観光の力も活用した広域的な交通サービスの段階的なリ・デザインのモデル地域の創出
➢ 島嶼部の特性を踏まえた海陸横断のシームレスな移動環境の構築

【令和9年度まで】

➢ 沖縄のすべての地域で「交通空白」の解消に目途

+α（①・②の取組を下支えし、加速化する
地域公共交通のアップデート、交通産業の事業基盤の強化）

➢ 各人のパーソナリティに応じ、移動、観光、消費、ECを一気通貫で扱い、好循環を加速する新たなMaaSシステムの導入
➢ 人材育成・体制構築を含むモビリティデータの活用推進 ➢ 市町村／事業者／分野の垣根を超えた共創の促進 等

精神的豊かさと経済的豊かさを両立した「豊かな沖縄」を実現

※ OECDのWell-Being指標（所得と富、雇用と仕事の質、住宅、健康、ワークライフバランス、知識とスキル、社会的つながり、市民参画、環境、安全、主観的幸福）を参考。



記者会見（令和7年6月10日）の様子

（左：三浦沖縄総合事務局長、右：星運輸部長 ※いずれも当時）

【2025 年 8 月】

主要ニュース NO.8

開発建設部

令和7年 北大東島豪雨について

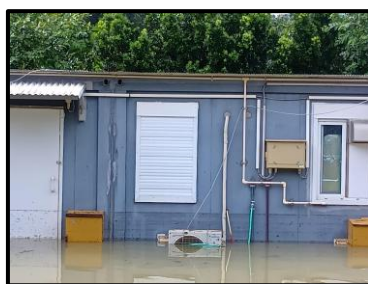
～迅速な災害復旧支援の取組～

北大東島では令和7年7月26日から28日まで台風第8号に伴う豪雨により、統計上過去最大となる72時間雨量477.5mmを記録しました。

今回の豪雨により、建物の床上浸水10件、床下浸水4件、道路の冠水7箇所の被害が発生しました。



村道冠水状況調査



冠水状況



溜池現場確認

北大東村の要請を受け、開発建設部では7月29日から北大東村へ緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣し、浸水、冠水被害等の調査を実施しました。また、8月3日には当局所有の排水ポンプ車を北大東村に派遣し、溜池の排水作業を開始しました。

復旧支援は8月8日までの約11日間実施し、この期間中 TEC 隊員は延べ80^(※1)人・日を派遣し、排水支援として排水ポンプ車1台（稼働日数5日）を派遣しました。

今後も万一の災害発生時には迅速な災害復旧支援を行えるよう、常日頃から備えていきたいと思ひます。



排水ポンプ車陸揚げ



冠水箇所の吸い込み口設置



ポンプ起動、排水開始



北大東村対策本部会議

※1 沖縄県庁へのリエゾン派遣（10人・日）を含む。

【2025 年 9 月】

主要ニュース

NO.9

農林水産部

沖縄県内初！「スマート農業技術活用促進法」に基づく計画を認定しました！

～さとうきび栽培における労働生産性の向上に向けて～

2025 年 9 月、「スマート農業技術活用促進法」に基づき、農業者から申請のあった生産方式革新実施計画について、県内初となる認定を行いました。

スマート農業技術活用促進法の詳細については、農林水産省 HP に掲載しています。

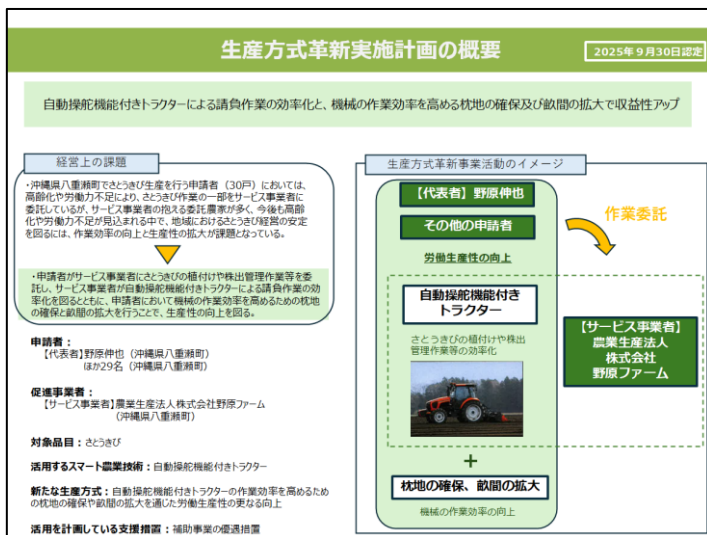


農業者の減少等の農業を取り巻く環境の変化に対応して、農業の生産性の向上を図るため、2024 年 6 月に「スマート農業技術活用促進法」が成立。同年 10 月に施行されました。

「スマート農業技術活用促進法」では、スマート農業技術の活用及びこれと併せて行う農産物の新たな生産方式の導入に関する計画を認定し、認定を受けた農業者等は、金融・税制等の特例措置を受けることができます。

今回認定を受けた計画は、申請者がサービス事業者にさとうきびの植付けや株出管理作業等を委託し、サービス事業者が自動操舵機能付きトラクターによる請負作業の効率化を図るとともに、申請者において機械の作業効率を高めるための枕地の確保と畝間の拡大を行うことで、労働生産性の向上を目指す取組となっています。

沖縄総合事務局では、スマート農業技術の一層の推進に向け、引き続き農業者の認定取得を支援していきます。



認定証の授与



認定証授与式での
意見交換の様子

2025 年 10 月 7 日、県内で初めて計画認定を受けた農業者に対して、認定証の授与式を開催しました。

認定証授与式では、小八木局長から認定証を授与し、申請者を代表して野原ファーム様にご挨拶いただきました。

【2025 年 11 月】

主要ニュース No.10

農林水産部

「沖縄黒糖」が地理的表示（G I）に登録されました！

～地理的表示（G I）保護制度開始 10 周年～

我が国では、その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因・環境の中で長年育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する農林水産物・食品等を国が登録し、産品の名称を、地域の知的財産として保護するために「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律」（地理的表示法）が制定されています。



地理的表示（G I）保護制度開始 10 周年である 2025 年、「沖縄黒糖」（沖縄県）が県内 5 つ目の G I 産品として登録されました。



＜沖縄黒糖＞（沖縄県）

2025 年 11 月登録 農林水産大臣登録第 172 号

沖縄県で栽培したサトウキビのみを原料とし、約 400 年前から製造されている伝統的なお茶菓子。ポリフェノール、うま味、ミネラル等の成分を含み、ほのかな苦味のある独特の深い味わいがあり調味料としても広く浸透しています。

G I の登録には、登録団体による生産者や関係者間での品質等の基準の事前調整や、登録後も産品の特性を守るため登録団体自らによる生産行程の管理義務が発生します。一方、地域と結び付いた産品の品質、製法、評判、ものがたりなどの魅力や強みの見える化ができること、国による取締りにより模倣品が排除可能であることなどのメリットがあります。県内では今回 G I 登録された「沖縄黒糖」のほか、クエン酸を多く含む「琉球もろみ酢」、大玉で肉厚の「ぐしちゃんピーマン」、鮮やかな黄色の「中城島にんじん」、伝統菓子の「ちんすこう」が G I として既に登録されています。



＜琉球もろみ酢＞
（沖縄県）琉球泡盛のもろみ粕を圧搾・ろ過することで作られる琥珀色の飲料



＜ぐしちゃんピーマン＞（八重瀬町）大玉で肉厚のリンゴのような甘さとシャキシャキした食感が特徴のピーマン



＜中城島にんじん＞
（中城村）鮮やかな黄色と、ゴボウのような細長い形が特徴のにんじん



＜ちんすこう＞
（沖縄県）琉球王朝時代からの伝統菓子で、サクサクとした食感が特徴の焼き菓子

【2025 年 11 月】

主要ニュース NO.11

経済産業部

11 月は事業承継啓発月間

～つぎんちゅがつなく！地域のミライ～

内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、独立行政法人中小企業基盤整備機構沖縄事務所、沖縄県事業承継・引継ぎ支援センターは、沖縄県事業承継ネットワークと連携し、県内企業の事業承継を官民一体で支援するべく、11 月に「事業承継啓発月間」を実施しました。「つぎんちゅがつなく！地域のミライ」（つぎんちゅ＝沖縄の事業承継・引継ぎの担い手である次世代経営者）をテーマに、事業承継に関するフォーラムや交流会の開催、新聞・ラジオ・SNS 等による広報活動を行いました。

こうした取組を背景に、沖縄県の後継者不在率（2025 年）は、民間企業調査によると 61.0%と昨年比で 4.3%改善し、全国ランキングもワースト 5 位から 6 位へと更新しました。

今後も、後継者不在率の更なる改善に向け、引き継ぎ事業承継支援に取り組んでまいります。



SNSでも発信中！

11月は 事業承継 啓発月間

つぎんちゅがつなく！
地域のミライ

沖縄で素敵な引継ぎ事例が増えています。

11月の事業承継啓発月間では、地域に密着した多様な発信を通じて、事業承継をもっと身近に感じてもらえる機会をお届けします。

- ラジオ番組
- テレビ特別番組
- SNS
- 相談会 with 自治体
- 各種セミナー交流会
- 支援機関士業向けセミナー

主催
内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、(独)中小企業基盤整備機構沖縄事務所、沖縄県事業承継・引継ぎ支援センター
協力：沖縄県事業承継ネットワーク

詳細はこちら

内閣府沖縄総合事務局
経済産業部中小企業課

事業承継月間チラシ



女性つぎんちゅ交流会



つぎんちゅ M&A 促進フォーラム